

## 8. ワークショップの感想と ワーキンググループの今後の活動について

昭和大学

口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門

教授 美島 健二

岩手医科大学

口腔顎顔面 再建学講座 歯科麻酔学部門

教授 城 茂治

北海道医療大学

口腔機能修復 再建学系 咬合再建補綴学分野

教授 越野 寿

 の部分をクリックするとジャンプします

## 「ワークショップの感想とワーキンググループの今後の活動について」

昭和大学歯学部 美島健二

今回、「第1回 IT を活用した教育センターワークショップ」に参加させて頂き、これまでになく、とても新鮮に感じたことは、大学関係者のみならず、地域の歯科医師会から御参加された方々から現場の声をお聞きすることが出来たことです。

各セッションにおいては、いずれも大変活発な討議がなされていたと思われませんが、特に早急な対応が必要だと感じられたのは、超高齢社会を背景にして、今後益々需要が増えると予測される在宅歯科訪問診療において大学が果たす役割すなわち「地域連携」に関する部分です。私自身、病理学を担当する基礎系教員として、この点を踏まえて将来臨床の現場に向かう学生の教育にどのように反映させていくかをきちんと整理して考えいく必要があると認識することが出来ました。その中で、私が所属するグループでは、「口腔乾燥症」をテーマとした IT 教材の開発を手がけますが、グループ討議の中では、本教材を、「チーム医療の中での歯科医師の役割の理解につながるコンテンツ」として位置付けがなされました。すなわち、本疾患を1つの例として、口腔疾患と全身性疾患の関連性を学習し、さらに高齢者における口腔ケアの必要性を理解した上で、チーム医療を実践できるオーラルフィジシャン（口腔科医）を育成することを最終ゴールとして行われることが確認されました。本ワーキンググループの今後の活動についてですが、次の3項目に関する e-learning のコンテンツを作成します。

- (1) 唾液腺の成分・機能に関する復習用問題作成
- (2) 口腔乾燥症の症例呈示（3例）の選択、分担して視覚素材の収集
- (3) 口腔乾燥症のメカニズムを分類したシェーマの作成

これらのコンテンツを e-learning により学習することにより、「口腔乾燥症」の病因・病態に関する理解を深めます。次に、その後行われる、Small Group Discussion に使用する口腔乾燥症の症例シナリオを各大学分担して作成します。加えて、到達度チェックの目的でポストテストとその解説を作成します。

これら一連の作業を skype による会議やメールでの対応により、次回、3月7日のワークショップに向け一連の作業を3大学共同して進める予定です。

当該事業を通じて、3大学間のつながりを強化することにより、それぞれの大学の特徴を生かした教育システムの構築を図りたいと考えます。



## 第1回 WS 報告書

「ワークショップ (WS) の感想とワーキンググループの今後の活動について」  
岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野  
城 茂治

今回、文部科学省大学間連携共同教育推進事業として採択された「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」に岩手医科大学の世話役として参加させていただくことになりました。今回の「第1回 IT を活用した教育センターWS」開催に当たり本校からは事務職2名を含む8名を推薦させていただき、さらに関連歯科医師会として岩手県歯科医師会、盛岡市歯科医師会から各1名ずつ推薦いただき、総勢10名で参加いたしました。人選に当たり、今後5年間にわたり本事業を強力に推進できる人材を推薦させていただきましたので、今後の展開も期待できるものと確信しております。

WS 開催に先立ち、Skype 会議も何度か行ってきましたが、余り具体的な検討も無いまま、また他の参加者への情報提供が不十分な状態での開催でしたので、グループ2「基礎疾患を有する患者の歯科治療」の世話人としても大変不安を抱いたまま、11月22日(木)昭和大学旗の台校舎に向かいました。参加された方々は、歯科医師会からの参加者の一部を除き、WS は参加経験もあり、スムーズに WS に参加できたのではないのでしょうか。とりわけ開会式に続いて解説されたセッション1とセッション2で今日の WS の目的がある程度理解できたのではないのでしょうか。また、各セッションで WS の説明が簡潔になされたのもスムーズに WS の流れには入れ込めた要因ではないのでしょうか。グループセッション、全体会議とも活発な意見交換ができ、全体的には有意義な WS となったと考えております。特に、これまでは余り意見交換のできなかった歯科医師会の先生方の現場での声、意見が聞けたことは今後の本事業推進には大変有効であったと確信しております。

今後は、メール、Skype 会議システム等を活用して各グループに分かれて具体的な活動になりますが、何度か各メンバーの意思統一を図る機会を設ける必要があるかも知れません。グループ2では、メーリングリストを用いて各メンバー間の意見交換、情報共有を図って行き、必要に応じて三大学の代表メンバーが Skype 会議で意見交換をして行く予定です。さらに本グループには歯科医師会のメンバーが入っておりませんが、基礎疾患は訪問歯科診療、医療連携とも関わるため必要に応じて歯科医師会の他メンバーからも意見を伺って行きたいと考えております。

「ワークショップの感想とワーキンググループの今後の活動について」

北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野

越野 寿

本事業の採択が決定して以降、北海道医療大学の担当責任者として、昭和大学、岩手医科大学の先生方と、直接お会いし、また、スカイプを活用した会議を通じて、このワークショップの企画に参画させていただき、ワークショップにおきましては、「地域におけるチーム医療」をテーマに検討する班長を担当させていただきました。

このテーマにつきましては、昭和大学の向井教授とスカイプでの打合せ会議を行い、当日のグループワークが円滑に進むよう事前準備をさせていただきました。とは言いまでも、向井教授が十分に検討された原案がありましたので、ほとんどそれにしたがって議論を進めていけば、良い結論が得られるとの予感がする打合せ結果でした。

我々、グループ4の構成員は、昭和大学関係では、佐野晴男教授、北川 昇准教授、上光弘目黒区歯科医師会理事、斎藤 一人蒲田歯科医師会会長、岩手医科大学関係では、須和部京介常任研究員、金子良司盛岡歯科医師会副会長、北海道医療大学関係では、大森幹朗札幌歯科医師会理事、歳桃 淳情報推進課員と私の総勢9名でした。

最初のグループワークである「超高齢社会に必要とされる歯科医師像は？」に先立ち、仮の司会役として、ワークショップのグループ3役（司会、記録、発表）を決めるところまで担当させていただきました。ワークショップ初参加の方もおられましたが、皆がすぐに打ち解け、スムーズなグループワークに入っていたと思います。

私自身、大学の教員ばかりのワークショップは数多く経験してきましたが、歯科医師会の先生方や事務職も含めたグループ討議は初めての経験ではありましたが、それぞれが持ち味を発揮して、地域の現場で起こっていること、患者さん目線での意見等、非常に参考になる意見が多数出され、まさに本事業の設計図通りの議論が展開できたように感じております。

2つ目のグループ討議である「今後連携校および歯科医師会で協働して開発するIT教材は？」におきましても、現状の歯学部での教育内容をお互いに理解しながら、歯科医師会の先生方から提示される現場での問題点を重ね合わせ、現場のニーズに応えられる方向性を提示できる議論ができたのではないかと感じております。

今後、今回のプロダクトをベースに、具体的な教材開発に入っていくこととなりますが、今から出来上がるものに大きな期待ができる予感を感じているところです。

今後ともよろしくお願いたします。